

地域福祉分科会

議案第36号 令和3年度鈴鹿市一般会計補正予算(第3号)

多言語通訳システム・多言語翻訳システムのタブレット端末を追加

○多文化共生推進費 448万7,000円

(概要) 外国人市民の相談窓口の機能強化と、市が発信する情報の多言語化により、外国人市民の生活支援を行うため、多言語通訳システムのタブレット端末の台数を追加し、使用時間を延長するとともに、多言語翻訳システムの新たなタブレット端末の導入に要する経費を計上するもの。

質疑 多言語通訳システムおよび多言語翻訳システムは、それぞれどのような契約になっているのか。また、多言語翻訳システムは、1回30分以内であれば、ビデオ通話による通訳への対応も可能なようだが、導入するタブレット端末をより安価な多言語翻訳システムに統一しなかったのはなぜか。

答弁 多言語通訳システムは想定使用時間に基づいた年間契約であり、多言語翻訳システムは月単位の定額契約である。多言語翻訳システムのタブレット端末は、アジア諸国の言語をはじめとする多言語の翻訳に対応するため、新たに導入するものであり、本システムのビデオ通話は、通訳の対応時間が短いため、翻訳に限定した契約とする。



多言語通訳システムのタブレット端末

私立保育園・幼稚園などの職員が受けたPCR検査費を補助

○私立保育所補助事業費／PCR検査費補助 90万円

○私学振興費補助等／私立幼稚園PCR検査費補助 10万円

(概要) 新型コロナウイルス感染症拡大の防止と、安定的な保育事業の継続のため、私立保育園・幼稚園などの職員が、その事業者の負担によりPCR検査を受けた場合に、その費用の一部を補助するために要する経費を計上するもの。

質疑 私立保育園は45回分、私立幼稚園は5回分のPCR検査費の補助とのことだが、どのような内容の補助になっているのか。また、ワクチン接種が進んだ場合、この補助事業にどのような影響が出ると考えているのか。

答弁 職員の勤務先や同居の家族などに陽性者、濃厚接触者などが発生した場合、職員本人は行政検査の対象ではないが、保育施設の安定した管理運営のために職員に対して私立保育園・幼稚園などが自費でPCR検査を実施した場合、その費用の一部を補助する。1検査当たり事業者負担分の2,000円を差し引き、職員1人当たり上限2万円、検査回数2回までとして補助する。

今後、ワクチン接種の進行状況によっては、PCR検査の需要が下がる可能性も考えられるが、事業者の運営上の安心を担保するものとして、本事業を実施したい。